



時代を切り拓いた企業家たち
～ 40年の歩み～

since1976

香川県中小企業家同友会
創立40周年記念誌

はじめに

香川県中小企業家同友会 創立四十周年誌編集委員会 委員長 上野 準一

香川県中小企業家同友会設立四十周年にあたって、多くの方々のご協力をいただき四十周年誌を発行することができましたことに感謝申し上げます。

当誌はコンセプトとして以下の二つを基軸として編集に取り組みました。

- 一、四十年間の運動の歴史を振り返り、到達点を明らかにすると共に今後の指針の一助とする。
- 二、誰にもわかりやすく、読みやすく、同友会を容易に、正確に理解できる資料として利用できるものにする。

同友会運動の歴史は「人間尊重の経営」の追求であり、実践であります。我々会員がそのバイブルとしているのが一九七五年に中同協が発表した「中小企業における労使関係の見解―中同協」です。四つのポイントがあります。

- 一、経営者の経営姿勢の確立
- 二、経営指針の成文化と全社的実践の重要性
- 三、社員を最も信頼できるパートナーと考え共に育ちあう（共育）
- 四、経営を安定的に発展させるために外部経営環境の改善

この根底にある考え方は「自主・民主・連帯の精神」です。それぞれの深い意味を同友会では、以下のとおりに考えています。

- ・「自主」とはかけがえのない人生の全面開花―人間の尊厳性（人間らしく生きる）
- ・「民主」とは生きることの保障―生命の尊厳性（生きる）
- ・「連帯」とはあてにし、あてにされる関係―人間の社会性（暮らしを守る）

※一六一頁（同友会の基本理念）参照

これらは人類が長い歴史の中で求めてやっと到達した根源的で普遍的な要求であり課題です。

日本国憲法は「主権在民」「平和主義」「基本的人権の尊重」の三本柱でとりわけ「基本的人権の尊重」は国民の根源的要求を規定しています。第一三条「個人の尊厳、生命・自由・幸福追求の権利」など三十三か条もの多岐にわたって規定しています。

また、立憲主義とは国民が政府や国会議員などを憲法で規定するものです。日本国憲法は人類が戦争などの長い歴史の中で到達した考え方であり、社会の仕組

みです。「人間尊重の経営」は憲法と共通の土台の上にある国民の願いであり権利です。

また、「人間尊重の経営」は香川県中小企業家同友会設立以来四十年間多くの会員経営者が求め実践してきたことです。企業内で追及実践され、広く地域社会でも「人間尊重」が実践されることを願ってやみません。

残念ながら現実には「ブラック企業」や「原発の再稼働」「大企業への際限のない減税」「非正規雇用による格差の拡大」のように企業の社会的責任を放棄し、儲けを人間の尊厳や命より上に置く場合が見受けられます。

また、国政においては憲法違反が取りざたされている「安保法制」は立憲主義を脅かしているようにおもえます。

これらを考えるとき「自主・民主・連帯の精神」の深い意味を学び、同友会運動の真価を発揮し『『生きる』『暮らしを守る』『人間らしく生きる』』を実現できる社会を創っていく使命が私たち中小企業家にあると思います。

この四十周年誌が皆様のこれからの会社経営や社会活動のお役に立てることを祈念いたします。

	代表理事あいさつ	香川県中小企業家同友会 代表理事	川北 哲	1
	祝 辞	中小企業家同友会全国協議会 会長	鋤柄 修	2
		四国経済産業局長	成瀬 茂夫	3
		香川県知事	浜田 恵造	4
		高松市長	大西 秀人	5
同友会運動と共に	香川県中小企業家同友会 相談役	三宅 昭二	東 秀憲	6
	香川県中小企業家同友会 相談役			7
歩み	香川同友会四十年の歩み	創立～第十五期 座談会		10
		第十六期～第二十五期 座談会		18
		第二十六期～第四十期 座談会		26
企業づくり	経営労働委員会	活動の変遷とこれから		36
		第三十一期～第四十期 座談会		38
		経営指針成文化		42
	同友会大学			48
	委員会活動			52
	部会活動			64
地域づくり	中小企業憲章			72
	環境づくり運動			80
	金融機関との連携			82
	情報の収集と発信			84
	資料			86
同友会づくり	支部づくり			92
	会員増強と支部活性化			98
	性別・世代別の運動			102
	情報の発信と共有			108
	経営相談室			110
	総務財務委員会			112
	理事会の機能と役割			115
	同友会ビジョンの作成			116
	事務局の歴史から求められる役割を見る			117
	事務局理念について			118
	中協と香川同友会の関係			120
	香川同友会の選挙と宗教に対する基本的見解			122

私の学びの一言
パートナーとして

132 124

四十年の記録

四十年の時代背景	134
四十年の歩み検証	156
「自主・民主・連携」の深い意味	161
「中小企業憲章」について	162
中小企業振興条例	166
歴代代表理事	182
歴代支部長	184
歴代委員長	188
追憶 香川同友会ゆかりの人々	192
編集後記	194
協賛広告	196

四十周年を迎えて

香川県中小企業家同友会 代表理事 川北 哲



この度の香川県中小企業家同友会、創立四十周年おめでとうございます。全会員の皆様と共に喜びたいと思います。

香川同友会は一九七六年（昭和五十一年）四月二十三日、全国で十九番目の同友会として、わずか三十四名の志ある先人たちが集い設立しました。今では一六〇〇名を維持し、全県的には十四の支部、十四の委員会、十の部会の体制で、県下では最も活発に、活動的な「互いに学びあう経営者の会」として、大いに会内外に広く認められるに至っております。

このことは、ひとえに創立会員、歴代役員・会員の、同友会に対する深い想いと努力の積み重ねと、それを陰で支えてくださった事務局の皆さん方のご支援があったからこそと思います。さらには、中同協をはじめ、各地同友会の連帯も、忘れてはならないことでもあります。

同友会の発展は、同友会理念である「三つの目的」を「自主、民主、連帯の精神」で追求しつつ、「国民や地域と共に歩む中小企業」をめざそうとする会員が、組織経営をめざし、共感を呼び、同友会運動や活動が各企業経営に深く浸透してきたからだと思います。また近年では、人を生かす経営の「中小企業における労使関係の見解」や「人間尊重の経営」との関係が、「自主、民主、連帯の精神」と整合性を深掘りされてきました。

ここ十年間の特徴を申し上げると、まず

「人を生かす経営」の、「経営指針を創る会」の実践運動、共同求人活動の合同企業説明会の強化、障がい者雇用の強化、社員共育塾の強化など、相当なる成果を作り出しています。また、地球レベルでの温暖化問題についても、CO₂削減など、エネルギーシフトへの勉強会なども活発化しています。

平成二十二年六月十八日に中小企業憲章が閣議決定されて以来、全国同友会で自治体に対して、中小企業振興基本条例の制定運動が活発に動き出し、香川同友会においても同時に制定運動を推進し、その成果が今日では、一県五市で条例が制定されています。

四十周年を迎えて今後の十年後、二十年後を考えると、県や各自治体から中小企業における諸問題、諸課題は何をいっても香川同友会に相談したらどうかと言われるような、各自治体などからあてにされる必要とされる経営者団体になるべきと思っております。現在、県内企業数の十%強の会勢ですが、長期的には、三千名の会員を擁する同友会になるべきではないかと思えます。それによって同友会が情報源の宝庫となり、活発な活動を形づくっていかねばと思います。

最後に、四十周年の節目に同友会を担っている全会員の皆さんと共に、今後五十年にむけて自信と誇りをもって、志高く連帯の輪を広げていこうではありませんか。

祝辞

中小企業家同友会全国協議会 会長 鋤柄 修



香川県中小企業家同友会創立四十周年および四十周年記念誌の発行を心よりお喜び申し上げます。

四十年にわたる香川同友会の活動は、全国の同友会運動の発展に多大な貢献をされてきました。一五〇〇名を超える同友会として四十周年を迎えられたことを共に喜びたい、香川同友会会員の皆様の同友会運動への熱い思いとご努力に敬意を表します。

全国十九番目の同友会として一九七六年四月に創立され、一九九十年には中協第二十二回定時総会、一九九五年に第二七回中小企業問題全国研究集会、二〇〇七年第三十九回定時総会、そして再び二〇一六年には第四十六回中小企業問題全国研究集会の開催をはじめ各種交流会をご担当いただき、全国に学びの場を提供いただきました。

また二〇一六年一月現在で組織率が九・八%と日本一であり、全国で五万名を指す同友会運動を牽引いただきました。地域経済が疲弊する中、中小企業をとりまく経営環境は、かつて経験したことのないような厳しいものとなっております。

私たちは、こうした中であっても、企業経営に責任を持ち、地域再生という社会的使命の自覚を高め、同友会に結集して同友会理念の総合実践に取り組みでまいりました。良い企業づくりの取り組みとともに

金融アセスメント法制定運動など経営環境改善運動も大きく前進しました。そして二〇一〇年六月に中小企業を「経済を牽引する力であり、社会の主役である」と位置づける「中小企業憲章」が閣議決定されました。

四十年の歴史を持つ香川同友会の皆様は、これまでの活動の蓄積を生かし、組織をあげてこれらの取り組みにも大きな力を発揮していただきました。特に支部づくりと共に地球環境問題や中小企業振興基本条例の制定を県内自治体に働きかけるなど、その積極的な取り組みには大いに期待しております。皆様のご活躍は地域の中小企業家を大いに励ましていくことと思います。

日本経済と地域経済の担い手としての中小企業の役割は、ますます重要さを増しています。同友会で学び実践する仲間の輪を広げ、地域再生の動きを中小企業憲章の理念を力に、豊かな地域と経済社会をつくるという壮大な展望へ向けて進んでいくようではありませんか。

皆様が創立四十周年を契機に、学ぶ活動に一層磨きをかけられ、二千名同友会を目指して、地域になくはならない企業づくりにこれまで以上に邁進されることを期待し、さらなる活動の充実と発展を祈ってやみません。

四国経済産業局長 成瀬 茂夫

この度、香川県中小企業家同友会が創立四十周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

貴同友会におかれては、昭和五十一年の創立以来、同友会理念（「三つの目的」、「自主・民主・連帯の精神」、「国民や地域と共に歩む中小企業」）を基軸に地道な努力を積み重ね、今日では一五〇〇社を超える経営者団体に発展されました。ここに、歴代代表理事を始め役員及び会員の皆様の長年にわたるご努力に深く敬意を表する次第であります。

さて、四国地域の経済は、総じて緩やかな持ち直しの動きで推移しておりますが一部に中国経済などの影響もあり、弱い動きがみられており、特に中小企業においては、未だ景気回復を実感出来ない状況にあるものと認識しております。こうした中、経済産業省としては、中小・中堅企業の支援に力を入れていきたいと考えております。情報面、人材面、資金面で当省の各種施策ツールを駆使するとともに、関係省庁や自治体、大学、研究機関、金融機関などとも密接に連携し、一過性でなく継続的に寄り添って支えていきたいと考えています。

このようなことで、地域の中小・中堅企業が地域経済を引っ張っていく中核的な企業に成長し、全体として企業収益が改善し、

雇用や賃金の改善につながり、さらに消費や投資につながる、好循環を生んでいくことが重要ではないかと考えています。その好循環の成果を全国、四国の津々浦々まで浸透していくことを期待しております。また、昨年十月 TPP の大筋合意がなされましたが、世界の GDP の約四割を占める巨大な市場において、工業製品の関税の九十九・九%の撤廃による輸出拡大や、農工商連携による輸出の拡大を中小・中堅企業を中心に後押しすることは、経済産業省として最大の任務と考えています。四国経済産業局、ジェットロ、中小機構等で相談窓口を開設し、TPP のメリットや活用方法について、相談を受け付けておりますので、是非ご利用頂ければ幸いです。さらに、外国人旅行者の増加や消費を喚起する環境整備を推進してまいります。

香川県中小企業家同友会におかれましては、今後とも、代表理事のもと会員相互の結束をさらに強固なものとしながら、地域を代表する経済団体として、地域経済の活性化に向けて、引き続き活発な事業展開を図られますよう期待してやみません。

最後に、創立四十周年を機に、貴同友会並びに会員の皆様方の一層のご発展を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

むなど、人口の社会増をもたらす魅力ある瀬戸内香川の生活圏域づくりをめざしていきます。

とりわけ、「成長する香川」では将来にわたる本県経済の持続的な発展に向けて、香川発の夢の糖である希少糖や全国でトップの生産量を誇るオリブ、かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）などの地域資源を生かした、新たな活力と付加価値を生み出す成長産業の育成・集積をはじめ、企業の競争力の強化や産業人材の育成などに取り組み、戦略的な産業振興を図るとともに、正規雇用の促進や雇用のミスマッチ解消、職業能力の開発支援、労働環境の整備などにより、安定した雇用の確保や職場定着への支援を進めています。

皆様方には、記念すべき四十周年を新たなステップとされ、地域経済の振興と活力ある地域づくりにより一層ご尽力いただきますようお願いいたします。

香川県中小企業家同友会の今後ますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍をお祈りいたします。

高松市長 大西 秀人

訪れることを大いに期待しております。

本市におきましては、今年度からスタートする、本市のまちづくり及び市政運営の基本方針となる「第六次高松市総合計画」に基づきまして、今後におきましても、創造性にあふれ、市民が真の豊かさや幸せを実感し、いきいきと暮らせる持続可能なまちの実現に向け、行政課題に積極的に取り組んでまいりたいと存じます。

折しも、本年は、瀬戸内国際芸術祭のほか、G7香川・高松情報通信大臣会合が本市において開催されることとなっておりまして、本市にとりまして、重要な年を迎えることとなります。

どうか、皆様方におかれましては、引き続き、本州市政の各般にわたり、格別の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、四十周年という節目の年を迎えられました、香川県中小企業家同友会が、ますます発展されますとともに、川北代表理事を始め、関係皆様方の御活躍、御健勝を心から祈念申しあげまして、お祝いの御挨拶といたします。

香川県中小企業家同友会が創立四十周年を迎えられましたことを、心からお慶びいたします。

香川県中小企業家同友会は、昭和五十一年の創立以来、力強い結束と緊密な連携のもと、中小企業の経営指針の確立や経営相談、景気動向状況調査など幅広い活動を展開し、地域の信頼や期待に応える企業づくりを通じて本県経済の発展に大きく貢献しておられます。

これも偏に、歴代役員並びに会員の皆様方のご熱意とたゆみないご尽力の賜物であり、深く敬意を表します。

現在、我が国は人口減少や少子高齢化の進行、財政状況の悪化、経済のグローバル化の進展など社会経済情勢の急激な変化により、大きな岐路に立っております。地方においては、これまで以上に自らの選択と責任に基づき、地域の発展を進めていくことが求められています。

こうした中、香川県では平成二十八年度からの新たな香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画」を策定いたしました。この計画では、「せとうち田園都市の新たな創造」を基本目標に掲げ、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の三つの基本方針のもと、人口減少の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組

この度、香川県中小企業家同友会が創立四十周年を迎えられますことを心からお喜び申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃から、同友会大学や研究会の開催などを通じ、経営者の資質向上や、企業間における協力的な強化に努められますとともに、中小企業を取り巻く社会・経済・政治的な環境の改善や、人間性・社会性を重視した経営指針の確立に取り組まれ、企業の活性化や地域経済の発展を支えておられますこと、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

また、香川県企業家同友会が、現在一五〇〇社を超える活発な経営者団体でありますことは、一九七六年の創立以来、時代の変化の中においても、同友会理念の下、志を共にする会員の拡大を始めとし、よりよい経営の実現を目指して活動してこられた中小企業家の皆様の不断のたゆまぬ努力の賜物であり、学び合いの精神の成せるものであると存じております。

さて、少子・超高齢化社会が進展する中、我が国におきましては、人口減少社会に対応するとともに、それぞれの地域において、住みよい環境の実現を目指す、地方創生施策が進められているところでございます。

今後、中小企業や地方におきましても、その効果が実感できる状況が、一刻も早く





香川同友会の創立四十周年を、お祝いいたします。

私ごとですが、創立時に末席で参加以来、人生の半分を同友会で仲間と共に学びつづけて来た事になり、嬉しく誇らしい思いです。

同友会創立時は、組織の充実をめざして、全県一区から十余のグループに分割し小集団活動を根づかせました。『同友会債券』を発行して財政危機を乗り切ったことなども忘れられません。

十周年～二十周年の間の会勢は五〇〇名から毎年二五〇名前後の実増で六年後には、二〇〇〇名。組織率は全国一位でした。圧倒的多数の新入会員を擁して、全ての活動で理念が深まることを常に留意し、共同求人活動、社員教育、同友会大学等にも力を注ぎました。

二十周年～三十周年は、長期不況の中で各経営者は、生き残りをかけて経営努力を傾けました。例会発表から学ぶ姿勢が強まったと思います。会勢には努力しながらも減少に転じてゆきました。

そして三十周年以降の十年間は、一進一退の会勢でしたが、着実な積み重ねの上に、「香川で全研集会の開催日までに一八〇〇名会勢へ」と勢いづきました。きめ細かな例会づくりを実践し、ワンゲスト運動で着実に仲間が増えてきている支部（中二支部の例）もあります。また、各企業で『事業継承』が進み「何を継承するのか」が論議されてきました。

全県的には『経営指針書』づくりが進みました。経営指針を創る会で助言者との討論後、深夜まで学び、考え抜いた経営者が『労使見解』の指し示す「人間尊重の経営」に目覚め、自社の改革に着手し、支部や委員会のリーダーに成長してきました。同友会が提唱した『金融アセスメント法』制定運動は、香川でも署名活動を展開しましたが、全国的には百万超となった国を動かし、民法改正につながりました。

さらに『中小企業憲章』は、ついに閣議決定（二〇一〇・六・一八）され、中小企業振興基本条例制定の運動は今も続いています。制定は香川でも県をはじめ市・町各自自治体に及びました。今では会内にシニア部会を上げたことで、同友会や企業で一時代を築いた方々が再入会された例もあります。

これ等は、三つの目的の総合的追求です。特に「よい経営環境をつくろう」とする運動が大きく開花し出しています。香川同友会の運動の質的变化を感じます。

香川では同友会行事や企業紹介などでマスコミへの登場や、地方自治体等の審議会への参加や政策提言、大学との交流等も盛んになってきました。同友会が異端視された時代から中央にどっかり坐った感じは、中小企業の再生、発展なくして日本経済の発展はあり得ません。同友会と共に成長する企業づくりを、全国の仲間と共にさらに推し進めたいと願うところです。

香川県中小企業家同友会 相談役 東 秀憲



創立四十周年という大きな節目を迎え、会員皆様と共に祝いしたいと思います。

昭和五十一年（一九七六年）四月、三十四名の先輩有志により全国十九番目の同友会が香川に誕生しました。以来昭和六十一年の十周年に千名達成、五年後平成三年二千名達成という快挙を成し遂げ、全国同友会から大きな注目を集めました。

全国行事（大会）では平成二年第二十二回全国協定時総会、平成九年中小企業問題全国研究集会、平成十九年第三十九回全国協定時総会を香川で受け持ち、二〇一六年二月一八日・十九日には第四十六回中小企業問題全国研究集会を香川で開催いたしました。

会勢を千名からさらに二千名へと明確な目標を掲げ役員・会員諸兄が正に情熱と思いを一つにしてその達成に向けて邁進していた所謂成長期には、発展途上故の潜在していた様々な問題点も成熟期に入り顕在化してきました。

例えば入会基準の見直し、会の改善、オリエンテーションや役員研修交流会の改善等もその一例ですが、同友会は「本音でものを言う会だ」を少し取り違え、当時の理事会などでは真剣が故の怒号が飛びかったり「一触即発」の場面も見受けられ、深夜にずれ込むこともありました。

かくのごとく当時の役員諸兄は激しいやり取りの体験もしましたが、幸いにも同友会には不変にして崇高な理念（三つの目的とそれを達成するための三つの方針と精神）があり、「雨降って地固まる」の如く、今日その地盤・組織体制はゆるぎないものとなっております。

他方、行政との関わりも長期にわたる金融アセスメント法制定運動の成果を礎とし中小企業憲章閣議決定に進展しました。

同友会が他の経済団体とその活動内容を異にする点が中小企業家の「家」の部分にあります。日頃はほとんど意識されないと推察しますが、企業の規模の大きさを競い合うのでなく、人間尊重の理念のもと強靱な経営体質の向上を目指すことは論を待ちませんが、経営者であると同時に一人の人間として魂を磨き、品格と人間力を高め、常に謙虚で、共に育ちあい尊敬しあえることを旨としていることです。

次の大きな節目は五十周年です。大いに学びを深め実践し、その成果を同友会にフィードバックさせ更に高い学びへと好循環させ、労使環境を改善し、地域との関わりを深め、貢献し、共に成長が確認し合える同友会を目指して行きたいと念じております。



**KAGAWA
DOYUKAI**

時代を切り拓いた企業家たち
～ 40年の歩み～

since1976

歩
み

1
CHAPTER

香川同友会 四十年の歩み

出席

三宅産業(株)
取締役会長

三宅 昭二氏
(相談役)

(株)ソルエース
代表取締役

増田 泰彦氏

(株)ファミリーホーム
代表取締役

千田 善博氏
(監事)

(株)太陽社
代表取締役

山地 英樹氏

(株)日本総合ビジネス
代表取締役社長

星野尾数馬氏

さかえドライ(株)
代表取締役

米谷 繁男氏

司会

香川県中小企業家同友会
事務局

高安 富男氏



三宅 昭二氏

司会 先ほどの増田さんのお話ですが、会員の一部分から中協から分かれて別の会を創ろうという話が出たのですが、やはり中協と一緒にやろうというということになりました。その時点で何人かの会員さんは退会されたのですが、残った人たちは会继续しています。では、創立総会を迎えて香川同友会はスタートしたわけですが、三宅さんに当時のことを伺います。

三宅 恥ずかしい話ですが、入会から一年ほどはあまり行事には参加していませんでした。何しろ道路事情が悪く、舗装をしていないガタガタ道を車で観音寺から高松まで走るのは大変でした。発会式のときは三十四名の中の一番末席にいたことを覚え



高安 富男氏

ています。その後、みなさんと一緒に行動したりお手伝いをしたという記憶がありません。ときどき例会に有名な人を呼んで話を聞いていたようですが、香川出身の力士で名解説者だった神風さんを講師に招いてお話を聞いたことがあります。それ以外に記憶に残っているようなことがあまりありません。それから後に私の会社に労働組合ができたものですから、どうすればいいものかと慌てふためいて事務局を訪ねたところ、これを読んだらどうですかと事務局長にもらったのが『労使見解』です。それを読んで始めて同友会はこういう勉強をしているところなんだと理解したわけです。同友会で本気で勉強をしようという気持ちになり、それから真面目に参加す

司会 本日は創立から第十五期まで活動の中心を担ったみなさんにお集まりいただき、お話を伺います。議題は、同友会入会について、その後の活動状況、同友会運動の発展について、当時の同友会運動からの学びと自社の変化、振り返ってみて当時の同友会運動の評価は、今後の同友会運動に期待すること、以上六テーマでお話を進めさせていただきます。ではまず入会の経緯と活動状況について千田さんからお願いいたします。千田さんは創立メンバーの一人でしたね。

創立のころ、分裂の危機に

千田 そうです。創立準備会するときからの参加です。最初に集まったのは三人でしたが、準備会には二十四名が集まりました。同友会との出会いは大阪同友会の行事への参加が最初です。参加して面白かったので香川でも、ということになったと思います。それから後に準備会の旗揚げに取りかかりました。今振り返ると正直なところどんな会かもあまりわからずに発足しています。設立総会は最初の準備会から一年後ですが、三十四名が参加しました。

増田 香川同友会発足から二年ぐらいで意見の違いがあり、解散の危機に遭遇しています。せっかく創ったものをここで潰してしまつてはおそらく再び立ち上げるのは相当難しいということだと思います。三宅さんのお話をお願いに行きました。

るようになりました。それが私の経緯です。ですから増田さんのお話のような出来事は全然知りませんでした。その頃の事務局がどうだったかもあまり覚えていません。

千田 会費は事務局員が毎月集金していました。会費を集めに行くとき会員さんと顔を合わせるので親睦が図れるということとで会員のところを回って集金していました。ところが集金が難しく、年間予算を組むときにわかつたのですが、会費の半分も集まつておらず、事務局員は無給で働く月があつたようです。それを我々会員は知らずに運営していたわけです。給料が支払われていないことがわかって慌てて同友会債券を発行し、会員に協力してもら



千田 善博氏



増田 泰彦 氏

いました。それで何とか凌ぎました。當時を振り返ると経営者の集まりではあったのですが、発足から一年間はほんとにこれといった活動はしていません。経営者は倒産の不安や資金繰りの辛さを抱えているわけです。そんな中で同じ悩みや痛みを持っている仲間がいることは心強いものがありました。ただし、これといった勉強はしなかったと思います。不勉強でした。

司会 私の入局は第三期の一九七八年ですが、経営者の団体とはいっても経営の勉強はあまりしていませんでした。そこで地元スーパの経営者にお願いで講演会の講師を務めていただきました。また(株)タダノの多田野さんにも講師をお

願いました。それがありません。そういう形で少しずつ例会らしさが整っていき、勉強会が始まりました。それに伴い事務所をビルの一画に移転しました。その時点で、先ほど千田さんのお話にあったような理事さんたちを中心に一口一百万円の債券を発行しました。その結果、一〇六口が集まり、遅配だった事務局の給与を支払い、残りで複写機を購入しています。

小グループ活動で活性化を図る

司会 財政的にとても大変だったようです。こうして少しずつ体制が整っていきましたが、中同協から田山幹事長をお迎えして一泊研修をしながら同友会の再建に取り組んでいます。

米谷 私の入会は百社目でした。同友会がどんな会なのか全くわからなかったのに、薦められるままに申込書にサインをしたところ、事務局長から記念すべき百社目ですと言われました。所属は五グループでした。その後二年位経ってですが、出勤前の朝六時からビデオを見て感想を話し合う勉強会を数人で始めました。「大阪お好み焼き 千房」の中井さんやその他異業種の成功事例のビデオを見て感想を

話し合い、その後「ぐりーんはうす」で朝食を取り解散していました。グループ長は入会して二年目で二年間やりました。

三宅 長野で開催された全国総会で、そこで五グループの三野さんが「香川の小グループ活動について」のタイトルで発表しました。その話を聞いて五グループではそういうことをしているんだと初めて知りました。



米谷 繁男 氏

米谷 私がグループ長をしていた二年間のことは頭の中にすっかり詰まっています。二十七名のグループ会員でしたが、例会に何人参加してくれるのか毎月とても苦痛でした。五人足らずだったらどうしようかと悩

んだこともあり。七人来てくれた、八人来たどほっとしたこともありましたが、右肩上がりに会員が増え、二年間余りで七十名近くになりました。ただ会員は増えたのですが、例会等の行事の参加者は一向に増えませんでした。何しろ出席人数が心配で例会当日は蓋を開けるのが怖かったですね。

山地 私はどなたに誘われて入会したのか記憶にないのですが、丁度先代が亡くなり、会社を継いだばかりのときでした。ですから右も左もわからないときに同友会への入会を薦められました。そんな時期だったので何か経営に役立つものがあればと参加させていただきました。ただあまり積極



山地 英樹 氏

的に活動をしていないのでみなさんのようなお話はできませんが、記憶にあるのは第八期のときの二日間の経営計画研修講座に参加したことです。講師の市倉先生は全国的に有名な方で、経営計画の立案研修でしたが、非常に感動しました。私どもの経営計画書の基本はこのときに学んだもので、それがいまだに続いています。またここから経営合理化協会を知り、そこでもぜひ勉強をさせていただきました。これも非常に有り難かったことです。入会后二年経ってから共同求人にも参加するようになりました。最初から一度も休まずに継続して参加しているのは弊社と三宅さんのところだけではないかと思えます。共同求人も私も私にとってはとても役立っています。それから納涼船の思い出もあります。

司会 共同求人採用した社員の新入社員研修ということで三泊四日の研修をしていましたが、今から考えるとよくやったなと思います。一時期は参加者が七十名近くいました。

三宅 たしかにそうですね。山の中にある「ダスキンふるさと村」の宿泊施設でした。

星野尾 私は設立総会から参加しています。でも熱心な会員ではなく誘われると例会に出るとい感じでした。印象に残った出来事は増強です。グループぐるみで熱心に活動していました。先ほど山地さんのお話にあった市倉先生の講演会は私が初めて経営委員長になったときのこと



星野尾数馬 氏

です。委員長になつて何をしようかと考えていたときに市倉先生はどうかと薦められました。それが経営委員長としての私の活動のスタートです。その後、経営者の話術大学を開講しました。毎回三十名余りの参加がありとても盛況でした。最後の講師がタダノの多田野さんです。「ミニ経営発表会」の名称で会員さんが交代で報告をする会ですが、しばらく続きませんでした。グループ長の思い出ですが、グループ長をしていた三年間はグループ会員のところへ泊りがけで出かけてマージャンをしたり飲んだりしました。親睦が目的でしたが、今では考えられないことだと思います。

司会 三宅さんはいつ頃から会の責任者に



が多くなつたわけです。その当時の私の新入会員への挨拶は、同友会は政治的に中立で、どの政党にも属さず、みんな等間隔であると。そして自主的な会であり、自主・民主・連帯を一生懸命に説きました。それが私の決まり文句のようなものでした。

千田 政治に参加した人は入会できませんという話も出たことがありました。

三宅 そうでした。でもあまりにも大きな旗を振られるのは困りますが社会の構成メンバーと同じでいろんな人がいるので、拒むのはよくないだろうという話になりました。しかし、同友会の名前を使って宣伝するのはよくないな

ど、選挙時の方針などを作成していません。そういうことを真剣に考えたので運営は比較的スムーズに進んだと思います。

千田 お陰で派閥はできませんでした。

増田 一党一派に偏しないところが一番よかったのだと思います。

黎明期の活動

司会 今も一八〇〇社を目指してやっていますが、振り返ってみてあの当時一年間で二五〇社、四年間で千社に増強できたのはなぜだったと思われませんか。

増田 高度経済成長期だったのが一番の要

因だろうと思います。日本中が元気で、ジャパン・アズ・ナンバーワンの時代を駆け上がった頃です。

千田 当時の同友会は友だち付き合いができる会だったからというのもあるように思います。経営者は孤独なので、悩みを相談できるところが身近にあり、異業種との出会いがあり、知り合いになり語り合える会だったからではないかと思えます。

司会 たしかに高度成長期でしたが、同じ時期に消費税三%の導入があったので一概に経済成長期だったからとはいえないものがあるようにも思います。

三宅 いろんな側面があります。しかし香

なられましたか。

三宅 六期目です。数名の役員さんが私の会社に来て、会長候補がいないのでお願いできないか。会長がいないと総会が開けないという話でした。それは大変なことだと、一年だけならとお引き受けしたのですが、一年どころかそれからずっと続きました。

踊り場のない会員増強、一気に二千社に

司会 三宅さんが代表になってから香川同友会は組織的にも落ち着いたのではないかと思います。そこからいろんな変化が生まれてきたように思いますが、丁度、六期に百社を達成しています。その時期

に香川同友会が運営のための組織や総務委員会を設け、いまでいう異業種交流の事業交流委員会や求人委員会、社員研修委員会など、次々と取り組み始めています。そして同時期に香川の会員増強が始まりました。北海道から大久保専務理事を3年続けてお招きし、理事会研修会を行っています。そして七期から十期の四年間で四百社を増やしています。

増田 三百社になったのは第八期頃ですね。

司会 ええそうです。そして第十期に五百社達成です。

増田 あの頃は盛り上がりましたね。

司会 五百社から一年間で七五〇社になりました。

三宅 理事会の決議は六五〇社でしたがこの調子ならもう百社上積みできるようだ、と七五〇社にしたのを覚えています。

千田 支部への還元金を出した時もありました。

司会 その翌年に二五〇社増やして千社になりました。本当に踊り場のない階段を一気に駆け上がった感があります。

三宅 その後の四年間で毎年二五〇社ずつ増やし、二千社になったのです。ところが香川同友会は形として、新入会員の方



川同友では増強のために様々なアイデアを出し、必死で取り組んでいたのは事実です。まず最初になぜ会員を増やすのかについて徹底的に話し合いました。また退会者を出さないように努めました。戦略としては空白地帯をつくらないようにしたりもしました。

米谷 時代背景は異業種交流やTOC改善活動など高度成長と重なっていました。風潮として何となく勉強をというよりは新しいものをという傾向がありました。そんなときの同友会活動であり増強でしたが、会員数は増えたものの結果、退会者も多く出ました。ですからグループ長として一番苦労したのは例会づくりです。新入会員にス



す。そのせいか何となく寂しいようなところがあります。でも創立から十五期までは私にとっては同友会と一緒に活動し変わっていった時代と位置づけられます。よい会社は大きくなることではなくみんなが幸せになる会社だろうと思います。指針は唱えるだけではなく会社をつくってよかった、従業員にとってよかったという会社づくりが大切だと学んだところだと思っています。

三宅 最初の頃の会員は経営者として何もせずに、会社には経営指針も何もなかったと思います。そんな人たちがばかりだったのですが、経営指針書を創ろうとか、みんなで共同求人をとくか、合同入社式や異業種交流など、中小企業の経営者

ボンサーが連絡係になり、クラスターのようになり固めました。例会の参加率がとても気になりましたが、会員数が減少したときはとくに感じました。連絡網を作成し、例会づくりを力注いでいます。そして、飲食関係の会員は例会に参加しにくいので、会員発案でそれならこちらから訪ねて行こうと、夕刻会員が小グループに分かれて飲食関係の会員を顔見せ訪問をしました。お店に迷惑をかけないよう一店十分にしてお代は一人千円などということもやりました。

司会 そういう苦労をみなさんされていたようですが、一方で共同求人のお陰で学卒の採用ができるようになったという言葉が聞きました。また異業種交流の中から何かを造り出そうという機運があったときに、会の中で異業種交流フェアを開催し、お互いに提携できるものを模索したりしています。国際交流委員会の活動もありました。

増田 あの当時は共同求人という言葉すらどこにもなかった時代です。初めて香川でつくったときはマスコミ等で非常に大きな反響がありました。「四月一日に新しい社員が入る会社でなければ」といつも言っていました。共同求人は今も続いていることはすごいです。

三宅 私たちは香川同友会として大学や高校にもよく話に行きました。

山地 私のところは共同求人です。新社員の採用をずっと続けています。苦戦はしてい

がひとりではできないこと、あるいはやりたいけれどもどうすればいいのかわからなくてもやもやとしていたものを、どんどん指し示してもらい、その中に自分も入って一緒に取り組みました。個々の経営者にとっても運動にとってもある意味黎明期でした。そんな中で大きな役割りを果たしたと受け止めています。

千田 そうですね。その流れを受けて私のところでも経営指針をつくってから今年で十年以上になります。もちろん社員と一緒に作って作成しています。

星野尾 経営者にとって設計図のようなもの、経営指針書の大切さを教えてくれたように思います。一時期、同友会のスローガンの一つの助け合いについての議論があったのを覚えています。

山地 最初の頃も今もそうですが、みなさん非常に真面目に同友会理念の三つの目的を念頭に置き、いろいろな活動に取り組んできました。それがこの会の一番素晴らしいところだと受け止めています。同友会の会員企業の中には世代交代をしたところが何社もあります。それが上手くできるところも同友会の素晴らしいところだと考えます。

司会 四十年の歴史の中の設立から第十五期までの草創期のお話を伺いました。香川同友会が目覚しく躍進をした時期に中心を担ったみなさんから当時の状況をお聞きしました。ありがとうございます。



ますが途絶えることなくずっと続けています。

三宅 私のところの新入社員は同友会の共同求人以外からの採用はありません。

増田 合同入社式や新入社員研修会など、言葉に迫力がありました。

司会 一九九〇年、瀬戸大橋架橋の年の第二十二回全国総会開催が決まり、二千社を目指しました。そして「あなたと私でもうひとり」のスローガンのもと、それを達成しています。

三宅 とても盛り上がった全国総会でしたが、そのときに同友会理念が確立しました。

司会 最後に四十年の歴史の中で創立から十五期まではみなさんにとってどんな位置づけであり、どう評価されますか。

増田 かつてはぜひぶん同友会運動に熱心でしたが、今は少し距離をおいていま



香川同友会 四十年の歩み

出席

三宅産業(株)
取締役会長三宅 昭二氏
(相談役)東新電機(株)
代表取締役東 秀憲氏
(相談役)(株)宗家くつわ堂
代表取締役相談役田村日出男氏
(相談役)(株)香川フードサービス
代表取締役香川 重義氏
(相談役)矢野団扇(株)
代表取締役矢野 俊郎氏
(相談役)
(同友会大学学長)

司会

香川県中小企業家同友会
事務局

児島 敏希氏



田村日出男氏

議所には結構深入りしており、ロータリーにも入っていましたが、中小企業家同友会のことには知りませんでした。おそらく例会だったと思うのですが誘われて参加したのがきっかけです。同友会の第一印象は「本当によく勉強をする人たちが集まっている会」、そんな印象があります。同時期に経済同友会にも入っていたのですが、経済同友会は政府や要人などにも申す機関、提案する機関であり会社の経営などについて学ぶところではありませんでした。それに反して中小企業家同友会は自分の身の丈に合っていました。会員になってからは事情が許す限り例会などの行事には積極的に出席しました。青年会議所は四十歳で卒業ですが、同友会に入会すると年齢に関係なく



40周年誌座談会



東 秀憲氏

一生会員なので、途中から何となくえらいところに入ったなという思いはありました。しかし、自分の会社のための勉強という点では他の団体に比べて勝るとも劣るところはなく、気がつく私にはとても役立つ会になっていました。

東 私も同友会に入るまでは同業者の会、例えば三菱出身なので三菱ストア会の会長を六期務めさせて頂いたり、電気商業組合と電気工事組合など、電気関係の組織しか知りませんでした。零細で異業種の会に入る余裕というか精神的なゆとりもなく、JCの話もあったのですが、とても無理だと諦めていました。丁度その頃、同友会の会員さんから、東さんは同友会に似合います

司会 本日は香川同友会創立四十周年を迎えるにあたって第十六期から第二十五期の間に役員を務められた皆さんにお集まりいただきました。まず最初に同友会入会の動機と支部や委員会での活動等、またどのような思いで同友会活動に取り組みられたのかについてお聞きします。

入会の動機と支部・委員会の活動

矢野 私が入会した当時の支部の名称は中讃支部でしたが、同業者の薦めで入会したので名前だけは知っていました。何をしていたのかは知らず、たぶん経営者のサロンのようなところだろうと勝手に思い込んでいました。入会当時は支部例会、支部長の役割りなども不明瞭で、同友会でなくともいいような団体の印象が強く、運営の仕方と同様のイメージがあり、とくに同友会だからというものを感じることはあまりありませんでした。『同友会活動の発展のために』に触れる機会があり、読んで驚きました。活動を明確に文章化し、それを堂々と会の理念に掲げている団体であったことにびっくりしました。それまでの私には資本家というか、経営者と労働者は相容れるものではないという意識がどこかにありました。ところが同友会は現実はその整合性を目指しており、その理念を真正面に掲げ活動が続けている団体でした。

田村 同友会の入会は結構遅く、年齢も五十歳を過ぎていました。それまで青年会



よと言われました。どこが似合うのかよくわからないまま、その言葉に誘われるように入会しました。昭和五十九年十二月七日の入会で会員No.五六三です。入会して二年目の昭和六十一年、第一期に支部長になりましたが、十周年の年で会員数千社を目指して運動が始まり、各支部が増強の目標を掲げました。私どもの支部は第一支部だから一番乗りをと皆さんからお尻を叩かれずいぶん頑張りました。お陰で宣言通り、目標達成一番乗りだった記憶があります。以来、同友会にどっぷりと首まで浸かる年月を送ってきました。妻と社員の一部から同友会と会社のどちらが大事かと突き上げを食らうこともありましたが、そのときは両方大事だと返事をしましたが、そ



に勉強を始め、同友会が提唱している人間尊重の経営を自分の企業で実践できないものかと考えました。それに向かって一歩ずつ、本当に歩みの遅い一歩で、今も登っている途中ですが、そんな歩みを続けてきました。私は六期のときに会長になりましたが、それから後、六年ほどかけて自社の経営指針書を作成しました。三豊支部所属ですが、当初は支部ではなくグループで、グループの会員数が一定の人数を超えると支部になっていたと思います。一九七六年に香川同友会が発足していますが、九年後の一九八五年の愛媛同友会発足に香川同友会は力を貸しています。また翌年の高知同友会、一九九六年の徳島同友会設立にも協力しましたが、それが香川同友会の活動の充実に繋



れほどに入り込む日々を送ってきました。

香川 実をいうと最初の頃の方がとても記憶に残っています。あるとき新聞の折り込みに同友会の講演会のチラシが入っていました。講師はお好み焼きの千房の中井社長さんで、当時ミスター同友会といわれていた方です。同じ食べ物関係なのでぜひ聞きたいと思って出かけました。あの方はご本人も中卒ですが、全国の支店の店長に中卒者を採用しているという、人間育成に関する刺激のある話でした。こういう会なら入会したいというのがきっかけです。そのときの中井社長さんの話で私が今でも実践していることがあります。全国各地に支店があるのに中井社長さんは給料を手渡してい



がったのではないかと思います。

司会 では続いてその後の同友会運動の発展の企業づくり、地域づくり、同友会づくりの三つのカテゴリーの中でどのように取り組まれたのか。また当時の同友会運動からの学びと自社の変化を含めてご発言をいただきます。

矢野 同友会運動と自社経営の関わりですが、まず自分の中でだからできたんだという部分からお話します。私自身、支部長を引き受けるには相当勇気がいりました。今は支部長の在任期間は一年、長くても二年ですが、あの当時の中讃支部の支部長は皆さん結構長くやっておられましたし、また今の同友会とは違うプレッシャーのよ



るということでした。私もそれ以来、今までずっと全店に給料を配達しています。自分の代わりに店をしっかりと守ってくれてありがたうという思いを込めて渡しています。同友会入会後はトントンとグループ長、班長、そして幹事長になり、任期中中で亡くなられた前支部長の後を引き継ぐ形で思いがけず支部長になりましたが、私は決して優秀な支部長ではなかったと思います。副支部長や幹事長が脇を固めてくれており、力強く引っ張ってくれたからこそ無事務められたのだと思います。

同友会運動を自社の経営に活かす

司会 三宅さんは労使見解で会社が変わったとか、経営指針を創って会社や社員が変



わっていったなど、様々な体験をされておられますが、それらについて聞かせてください。

三宅 今から三十八年ほど前、会社に労働組合ができ、当時の同友会に相談したところ、当時の事務局長が私に、これを読んでみたらどうですかと渡してくれたのが『新しい労使関係の見解』でした。ページをめくると経営者の責任についてや、経営者と社員、従業員との間の労使関係をきちんと確立することが企業の発展の一番大きなポイントだと書いてありました。それを読んだこれはここで勉強をしなければと強く思いました。それまでは恥ずかしい話ですが居眠り会員状態でしたが、それをきっかけ

うなものがあり、私には荷の重い役でした。その上、家業の団扇製造の形態が大きく変化し新社屋を建設、移転を余儀なくされた時期でもありました。ただ新社屋建設に踏み切れたのは支部長就任が一つのきっかけだったように思います。要するに同友会が事業展開の後押しをしてくれたわけです。私の中では同友会との関わり最大の出来事は支部長就任と新社屋建設です。銀行から多額の融資を受けましたが、支部長を引き受けて前に進むんだという熱い思いと意気込みがありました。それが同友会との関わりの中で自社のスタートです。あの当時は同友会運動とはいってもそれぞれが明確ではなく、何となく混沌としていた時代でした。個々具体的な社員との関わりや経





支部が頑張ってくれて一万五五四一名の署名が集まりました。二番目の思い出は副代表理事のときに会員数二千名を達成したことと、十周年のときの千名達成です。またその当時は理事会や常任理事会がよく紛糾し、会は定時に終わることはなく、深夜近くまで話し合いが続きました。紛糾の原因は思いの異なる提案によるもので、時間とエネルギーをずいぶん費やしました。それから二十期の記念総会の実行委員長を仰せつかったのですが、そのとき同友会が分裂しかねないような厳しい出来事もありました。三宅代表を中心に臨時代表理事会を何度も開きましたが、総会が紛糾した場合は責任を取り、退会を決議して臨みましたが、無事終了することができ安堵したことが



田村 私が入会した当時、香川同友会は既に発展しており、二千名達成後の中だるみのような時期で、会勢的に会員数が減少しており、様々な行事の参加率も低下しているときです。これでは駄目だということで、「明日の香川同友会を考える会」が立ち上がりました。そんな中で支部の数が多過ぎるので整理すべきではないかという意見が出て、そちらの方向へまとまりかけたのですが、結局それは同友会の会勢を弱めるだけではないかということで、現状維持という結論に達しました。また他にも常任理事会と理事会で議題が重複することがあるのでも理事会だけでいいのではないかと、委員会等での役員の負担が大き過ぎるのでもう少し整理が必要ではないか等の意見もあり、議論を重ねました。また行事の再検討や会費値上げ、会員数に見合った予算全般の見直し、事務局の配置等も検討されました。結果、実際の形として変わったところはありますが、一年をかけて議論したことが後々の運営にずいぶん役立つたように



経営者として資質の向上を図る
香川 商売柄ずっと人で悩んできたので、人の問題に関してはいろんな形で同友会がプラスになったという思いがあります。とくに知りあい、学びあい、助けあいの言葉は全ての運営に生きてきます。社内でも同じことを言っています。ビジネス交流も私は同友会会員同士でをモットーにしているので、会計事務所、印刷、建設等々仕事に関わる全てを同友会で繋いでいます。また入会当初に三宅代表から「走りながら身支度を整える」、「量は質を成す」の言葉を頂戴しました。この言葉、今の時代



営の在り様については、もちろんそれなりに心を砕いてきましたが、私の中では当たり前の要素がもともとあったので、同友会の学びによって目からウロコが落ちたという感覚はあまりありませんでした。ただ会員さんの中には同友会との出会いを新鮮に感じ、こつこつと学びを続けておられる方がたくさんいます。同友会の真髄は私は共育ちだと思っています。あの当時と今とを比べると、今は会内でそれぞれの分野が明確になってきています。そしてそれぞれの分野で目標に向かって特徴的なことを表現していくのが同友会だと思っています。支部の中でずっと言い続けてきたことですが、例えば会員開発は何のためにするのかは繰り返し話し合われてきましたが、その中で



同友会ならではの部分で個々の会員さんがどこで感じているのか。その点をきちんと見極めていかないと活動そのものが何となくになってしまいます。個々の分野に関しては真正面を見据えて取り組んでおられるだけ、そのことは非常に重要なことです。今、同友会は周囲の経済環境に対するアクションも含めて変わりつつあるというのが私の感想です。

東 今までの同友会の活動の中で一番に上げたいのは金融アセスメント法に関わったことです。一九九九年十月に当時助教授だった立教大学の山口義行先生の金融アセスメント法制定の提言についての講演を聞いたとき、これはどうも私が担当しそうだなど何となく予感めいたものがありました。予感が当たり金融アセスメント法担当の指示があり、以降六年間携ってきました。『香川県中小企業家同友会創立三十周年記念誌』にも「金融アセスメント法制定への取り組み」が紹介されていますが、これが私の同友会での一番の思い出です。金融アセスメント法制定に関してはいろんなことを



させて頂きました。街頭運動も何度か実施し、県内ほとんどの議会も回りました。その結果、二〇〇三年十二月十六日に香川県議会の採択をいただきました。その後高松市議会を始め、丸亀市など各市町の採択を得ています。在任中に制定までは至らなかったのですが、この制定運動が現在の中小企業憲章の礎になったのではないかと自負しています。同時に今は全国的に個人の物的担保がなくても経営指針書があればかなりの金額の融資が可能だという話を聞いています。これも香川同友会だけではなく、全国同友会のアセスメント運動の成果ではないかと受け止めています。山口先生はその後、教授になられ、今は大変有名になっています。署名運動ではそれぞれの

を鮮明に覚えています。

に思います。

に合うかどうかわかりませんが、自分の中で今でも生き続けています。また自分の足元の経営から常に同友会を見るというスタンスです。同友会に入会して一番よかったことはたくさん知り合え、相談相手が多くなったことです。またストリートに叱ってくれる人も多くなりました。そんな人が身近にいることは私にとって非常にプラスになっています。地域づくりに関しては地域に対応することが我々の一番大事な仕事だと考え、地域の人がなくてはならない店づくりを心掛けています。同友会づくりに関しては、連携の仲間維持に尽きると思います。仕事の中で生かされているのは自分の事業に対していろんなビジネスのネットワークができてきていることです。それが最も大事なことで考えます。私は事業経営が足元から離れないようにして同友会と関わってほしいという考えで今まで取り組んできました。そういう意味で同友会に籍を置いていることが会社継続に繋がっていると意識しています。



東 私たちが役員を務めていた時期は、中

小企業家の「家」の部分にスポットを当てており、会社を大きくすることを目的に同友会運動をやっているわけではないと考えていました。「家」はまさに人であり、経営者という前に一人の人間としての成長、練習にしっかりと焦点を当て、まさに人づくり自分づくりのための学びでした。物理的なものへの志向で同友会理念の大事なところを見失わないようにしたいと思っています。それから地域との関わりについては、私どもの店のある太田地区のコミュニティに役員として登録させていただき、秋祭り等のイベントにできるだけ参加するように心がけています。また子ども見守り隊の任命を高松南署からいただき、通学の誘導は今も続けています。また地区の小・中学校の子どもたちの社会体験の受け入れもしていますが、子どもたちの笑顔を見て私自身が楽しんでいるところがあります。



司会 先ほど愛媛同友会や高知同友会等の設立に関わるお話がありました。香川同友会と他県との関わりについて思い出などがあればお聞かせください。

三宅 愛媛同友会設立に関わったのですが、設立までには実にいろんなことがありました。ただ様々な困難を乗り越えたからこそ愛媛は粘り強くなったのだらうと思います。立ち上げのときは誰もが何かの思いを抱いているのですが、私は同友会は基本的に民主主義をベースにした会だと受け止めています。会員それぞれに顔かたちが異なるように皆さんそれぞれに素晴らしい能力を持っておられます。いくつか個性が光り、それが大きな力になっていくように思います。最初の頃は問題がいろいろとありましたが、その中でも会員増強に関する責任は私にあると思っています。増強の取り組みの速度を早め過ぎたために、一二年の会員が二年間で三百名になり、その後も急速に増えてご存知のように千名、そして二千名を達成しました。そのときは全国の注目を集めたものの、見回すと新入会員ばかりでした。そのために同友会らしさを貫こうと努めても、一方で同友会らしからぬ問題が発生したわけですね。同友会には皆さんで議論をし、納得のいく形で物事が進んでいくところです。代表を長年務めさせていただきましたが、とくに自分が何かをしたというのではなく、素晴らしいリーダーが次々に出てきて、熱心に取り組んでくれたので、私はその場づくりというか、その調整役でした。そ



のための努力をしたとは思いますが、同友会が本来目指しているところに自然に行き着くわけです。同友会理念の正しさはそういうところにもあるように思います。

司会 今後の同友会運動に期待することについてお聞かせください。

東 同友会は入口の部分が一番大事だと思うので、そこで同友会の理念や組織、運動の内容について深く理解し、そしやくされている方がオリエンテーションを担当することが肝要だと思います。講師はやはりベテランが担当した方がいいのではないかと考えます。役員研修会も役員が一堂に会して同じ理念、内容を学びあうことも大変大事ではないかと考えています。

矢野 理念と現実の両方に先走りするのはなく、同友会的な意味での足元をしつかりと見極めて関わっていきたいと思います。理念との整合性を全体の中で学びとしてやっていかなければという気がします。同友会の真髄は共育です。それに一番の

重きを置いていかなければと考えています。

田村 総務財務委員会に出席すると皆さん、同友会の真髄をわきまえており、進むべき道を間違えずに進んでいるように思います。同友会の総務財務委員会の委員長さんを始めとして、皆さんのやっていることを見てみると香川同友会は絶対に大丈夫ではないかという気がします。同友会の理念を継承し、そこから外れなければ大丈夫だろうと思っています。

香川 私は今でも悪戦苦闘している経営者です。今思っていることは、せっかいくるんな人生のある中で我々の業界に人生を賭けてくれている社員たちと共に幸せになりたい、なってもらいたいと思います。それには同友会の民主的な考え、謙虚な経営姿勢の部分の継続することが結局は



同友会の役員の人たちも同友会でどうやって勉強して自分が変わったか。自分が変わったことで自社がどう変わったかを中心に話をしてほしいと思います。自分の企業を語ることで会社は変わっていきます。役員は同友会理念の体現者にならなければなりません。そういう役員が増えることが地域社会をよくすることに繋がります。そういう形に同友会運動が広がっていくことを期待しています。

司会 貴重なお話をありがとうございました。

香川同友会 四十年の歩み

- 出席**
- ワイビー(株) 取締役会長 **野田 勝利 氏** (相談役)
 - (株)創裕 代表取締役社長 **川北 哲 氏** (代表理事)
 - 明石建設(株) 代表取締役 **明石 光喜 氏** (代表理事)
 - (有)アイサービス 代表取締役 **上野 準一 氏** (副代表理事)
 - 村尾経営労務研究所 所長 **村尾 義頭 氏** (副代表理事)
 - (有)渡辺エンタープライズ 代表取締役 **渡辺 修 氏** (副代表理事)
 - (株)パワーネット 代表取締役 **谷淵 陽子 氏** (副代表理事)
 - 香川県中小企業家同友会 事務局局長 **宮下 幸雄 氏**



司会 本日は創立第二十五期から第四十期までの間に役員を務められたみなさんにお集まりいただきました。みなさんには入会当時から現在までを振り返り、入会のきっかけから、役員時の活動、その後の同友会運動の学びと発展と評価すること。また今後への期待などを語っていただきます。ではまず入会と役員になられた経緯、運動の中でとくに記憶に残っていることについてお話しいただきます。

同友会運動の成果に魅せられて

川北 私は創業の翌年の平成七年の入会です。初めて例会に参加して感じたのはとにかく元気な会だということです。四月の入会でしたが五月後半には来期の支部幹事長候補に推薦されたものの、何もわからないので支部の役員会に出席して状況把握に努め、結局翌春には幹事長になっていました。入会一年後の支部幹事長を手始めに四年後には支部長を経験しています。支部長の後は企画委員長を務め、入会七年目に代表理事会に参加。二年間副代表をした後、三年目に代表理事を受け、今期で十三年目になります。記憶に残っているのは代表理事になって三年目に中同協の全国総会を香川同友会に誘致したことです。そして平成二十八年二月に、香川同友会創立四十年記念事業として中同協の全研開催が決まりましたが、十年があつという間に過ぎた感があります。

明石 合同企業説明会に参加したのが入会



のきつかけです。同友会の合同求人説明会に参加すれば採用に関するいろいろな取り組みができるので便利です。よと仕事関係の方から薦められました。ですから入会二年目から共同求人、合同企業説明会に参加しています。当時、私は専務でしたが会社は多角経営で人材を求めています。中讃第一支部所属ですが、入会翌年には副グループ長を仰せつかり、二年間やっただ後にグループ長を。そして幹事長、副支部長、支部長と二年ごとに階段が上がっていくというのが支部のやりたいの決まりでした。先ほど川北さんのお話にもありましたが、中同協の全国総会開催までに会員数を一六〇〇名にとつともない目標を掲げて組織活性化委員会の委員長として活動し、全国

総会開催時には副代表理事になっています。今年で入会二十年になりますが組織の副委員長、委員長をしながら副代表理事を二年代表理事に就任して八年目です。そんな中で最も印象深いのは全国総会時の増強運動です。

野田 丸亀で商売を始めるために平成二年に香川県に来ました。開店から二年後に香川同友会が会員経営者の文集を発刊したという記事を新聞で読み、事務局に電話をすると丸亀のホテルでオリエンテーションがあるからと教えられ参加しました。地元知り合いがいなかったその場で入会しました。知り合いをたくさんつくりに来て真面目に通っているうちにだんだん楽



しくなり、五年後に支部長をお引き受けして二年間何とか務めました。当時は同友会理念もわからず、前任の支部長のやっていることを見て覚えました。支部長を降りてから全研など全国大会に参加するようになったのですが、出店を続けていたのずつと人手不足でした。その状況を打開するために共同求人活動に参加し、以後現在まで継続しています。採用後の新入社員研修にも参加し、委員長を四、五年やりましたが、そのときに副代表にということでも現役で委員長をやりながら副代表になりました。その後、委員長を他の方に引き受けてもらい自薦で代表理事になりました。振り返ると同友会にとつぷり浸かった時代だったと思いますが、一番思い出深

いのは中央公園で開催した同友会祭りです。実行委員長をさせていただきましたが、強く印象に残っています。また全国環境交流会と全国総会も記憶に残る出来事です。

上野 入会は平成三年ですから二十四年になります。平成三年の香川同友会は会員数が二千名を超えており、最高の会員数でした。入会の動機は前の会社の関連会社の関係者からのお誘いです。入会後は目立った活動はしていませんが、社員の入れ替わりが激しくてそれを何とかしたいと考え、労務研究会に参加しました。労務研究会、労務委員会は労使問題委員会に名称が変更しましたが、そのときに委員長を務めています。平成十年だったと思いますが支部の幹事長を引き受け、翌年に副支部長、そ



上野 準一 氏



長をやらせていただきましたが、その後に副代表理事のお誘いがあり、現在に至っています。同友会には驚くことがたくさんありますが、中でも経営指針を創る会に参加したことが強く印象に残っています。自分自身の中で経営理念とはどういうものを改めて考えさせられました。また同友会理念の奥深さと素晴らしさを学びました。それまでの私は、経営は生きていくための手段としか考えていなかったのですが、経営は生きることそのものだとこのことを教えられました。経営理念の大切さを学び、それを自社の中でどう生かすかを模索し始め、お客さんである経営者に対して経営理念の大切さを伝えるようになりました。それから、中小企業憲章ができ、中小企業が社会の主力として認められたこと



村尾 義頭 氏

して支部長になっていますが、同時に経営指針づくりに取り組みました。『人間尊重の経営』を読み、幹部社員と一緒に勉強をするようになってから、経営とはこういうことなんだと腑に落ちるものがありました。支部長を終えた後、政策企画委員会に入り、二年後に委員長になり四年務めました。平成十五年、福岡での中同協全国総会で中小企業憲章の分科会に出席したのをきっかけに、中同協の憲章の草案づくりに参加しました。香川でも憲章の勉強会を続け、平成二十三年に県で最初の条例が丸亀市にでき、翌年には香川県と高松市に、そして現在は県内五市で条例ができています。

村尾 今年で開業三十七年目ですが、開業間もなくの頃に香川同友会を紹介されました。私の仕事のお客さんはみなさん中

はとても大きな感動でもありました。また第六期ビジョン作成に携ったことも自分を変える一つのきっかけになっています。

谷淵 平成八年に起業し、翌年の平成九年に入会しました。経営の勉強がしたいと思つての入会なので入ったからには真面目に参加し、意欲的に学ぼうと決めました。ですからほとんどの行事に出席したと思います。真面目に出席していた関係で役員というお声がかかり、支部長を二年間やらせていただきました。その前後で組織活性化委員会の委員になり、委員会活動に関わりながら同友会の本質に少しずつ触れていったように思います。また全国版の「企業変革支援プログラム」ができる前の「企業変革支援プログラム香川版」作成に参加させていただきました。これは自社



谷淵 陽子 氏

小企業の経営者なので、同友会にはどんな人たちが参加しているのか興味がありました。入会してまず驚いたのは会社の大小に関わらず互いに対等に接していたことです。またそれまでの私は経営者はお金儲けのことばかり考えていると思ひ込んでいたのですが、そうではなく経営はもろろんですが、人間として成長するために一生懸命励んでおられました。最初は自分の仕事に繋がるような勉強をしたいと思つていたので、労務研究委員会の委員長を二、三年やりましたが、それからは休眠状態で同友会の活動にはあまり参加していませんでした。活動再開のきっかけは例会の報告者になって報告したことです。後はみなさん同様、幹事長、副支部長、支部長を経験しています。支部長の後に経営相談室



宮下 幸雄 氏

評価の基準に役立つ大変有り難いものだったと思います。私にとつても馴染み深いものになっていきます。また政策企画委員会にも関わらせていただきましたが、ここでの学びが私にとって一番大きかったような気がします。衝撃的だったのは日本の国の九十九%が中小企業であり、雇用の七十%を占める人たちが中小企業で働いている。中小企業の動向で日本の経済の先行きが決まるということを感じたときです。その学びから曖昧だった自社の位置づけが明確になりました。政策企画委員会でしつかり学び、自社の在り方を見つけたと導かれたような気がしました。そのときの学びがあったから普通寺市の中小企業振興基本条例の制定に関わることができたように思っています。十八年を振り返

ると同友会の本質に触れたのはここ十年足らずのことです。七年前から副代表理事を務めさせていただき、経営研究会の実行委員長を二度、総会の実行委員長を一度やらせていただいています。その経験は自社の経営に非常に役立っています。今は来年二月開催の全研に向け、実行委員長の重責を感じつつ、成功のために自分の役割を精一杯果たしたいと思っております。

渡辺 サラリーマンを経て、平成元年に独立。同友会に入りました。入会は知り合いの経営者から薦められたのがきっかけです。入会した以上は出席を心がけましたが、途中で息切れがして休眠会員になってしまいました。しばらくその状態が続いたのですが、同じ支部の会員さんから戻ってきませんかと言われ、再び例会に出席し始めたところ、



少しずついろんな役が回ってくるようになってきました。当時、私の支部は若い会員さんが多かったことと、会員数が増加していた時期だったので、活気がありました。私が支部長になる二年ほど前から「商繁会」の名目で勉強会が始まりました。また例会づくりと役員会マニュアルづくりに取り組み、役員たちで作成しましたが、その頃に副支部長、支部長を一年ずつやらせていただきました。支部長を降りた後は政策企画委員会の副委員長を二年間やりましたが、ずいぶん難しい勉強をしたことを覚えています。その後、総務財務委員会に移り、委員長を引き受けています。二年間、経営研究会の実行委員長をやりましたが、一年目のときは参加者集めに非常に苦労したので、次はきちんとした取り組みで成功させなければと考え、二年続けて実行委員長をやらせていただきました。その後はご存知のように谷淵さんと交代で実行委員長と副委員長を何年かやっています。平成十六年に香川を襲った集中豪雨による高潮で事務所が被害に遭い大変だったのですが、同友会のみなさんに助けていただきました。



渡辺 修 氏

くかを考えたとき、そこに居住している人たちが集まり組織化していなければ対応できないという考えがありました。大阪同友会が同様の課題を抱えており、行政単位で支部をつくっていくという方針にしたようです。同友会運動は支部で学ぶことがベースなので、そこに集まった仲間同士で町をどうしていこうかと、地に足がついた運動をということと、地域を活性化すればその地域の企業も相乗効果で元気になるはずと。そういうことが地区会に求められていることだと思えます。

谷淵 条例ができたことは地域づくりのスタートですので、後は条例を生かしていくかなければなりません。そこで誰が生かすのかという地域にいる中小企業の私たちが。その考えは同友会の会員の中に浸透しつつありますが、今のところ会外の団体の動きは見えてきません。地域にいる中小企業が町の振興条例をどう生かすかの学びの場が必要です。同友会で結束し、地区会が一致団結してわが町をということになれば、会外の方が入ってきてフォローできる



みなさんの温かさをしみじみ感じた出来事です。

中小企業憲章で地域づくり

司会 続いて地域づくりについてですが、環境部会の同友の森づくりの活動がありますが、それと同時に地域に密着した地区会の動きがここ数年活発になっていきます。みなさんはどんな印象をお持ちですか。

明石 今は支部が紹介者ベースの組織になっており、高松の人が西讃の支部に入ったり、またその逆があるなど、そのために地区に焦点を合わせた活動ができていきました。会社があり生活している地域を良くしようという点から考えると難しいものがあり、地域に根差した同友会理念にマッ



るようにならなければと考えています。ただ、今はその状況とはほど遠いものがあります。せっかく振興条例ができて生かすしなければ意味がありません。地区会を構成する会員を増やすことがまず第一ではないかと受け止めています。私たち同友会が頼れる存在であることが非常に大切です。そのために増強と内部を固めることが今は大切であり、またそのチャンスのあるときでもあり、それは私たちのミッションだと思います。

同友会運動の質的变化

司会 同友会では増強に関しては長い間同じ形の取り組みが続いてきましたが、来年二月の全研に向けての増強は今までの増強とは少し違うように受け止めていますがいかがですか。



ちしませんでした。そこで地区ベースの集まりをつくったかどうかという話が出てきました。当然、振興条例制定を視野に入れた活動ですが、一方で会員増強に繋がり、また他団体との連携も考えられます。以上のような観点で今後大いに進めていかなければならない課題です。地区会は今、地域活性部会の形で進んでおり、坂出地区会が現在立ち上がろうとしています。その後を丸亀、多度津などが続いているようです。地区会が母体の例会づくりや他団体と連携した例会づくりなどが実現すれば、自分たちの会社や住まいのある地域の活性化が望めるのではないかと考えています。

上野 地域を活性化させるための一つの方法として取り組んでいます。同友会が各市町にどう責任を持って対応してい



川北 十年前の全国総会前の会員増強とそれ以前とはずいぶん異なるものがあります。十年前までは会員になれば新しい取引が生まれたり、商売に結びつくものがあるのではということが入会してくる会員が多かったです。今は自社が直面している経営課題解決のために勉強をしたいというように明確な目的を持って入会する人がほとんどです。また数合わせのための無理な入会は結局退会に結びつくことを私自身痛いほど経験しました。事務局長のお話のように確かに今はよい方向に変化しつつありますが、各支部の全会員に対して共に会員増強をという声かけがまだまだです。これが着実に浸透すれば無理のない会員増強が可能になるはずです。

渡辺 まったく同感です。私自身、商売が繁盛するよという誘い方をした記憶があります。また義理で入ってくれた人もいました。ですから結局、数年で退会ということになるわけです。先ほどのお話に

めてもらい、それを参考にしました。反省点はビジョンの冊子冒頭に目標数値を掲載したため、内容の理解以前に、押し付け感が強く出てしまったことです。作成したビジョンは会員がそれを実践していくことが大きな目的なので、各年度ごとの計画に落とし込むことが大事ですが、理事会で作成したにも関わらず、役員の交代によりビジョンを各年度ごとの支部や委員会活動に落とし込むことができていなかったように思います。第七期ビジョン作成に向けてやっていたべきことは、作成したビジョンによって会員の方向性を明確にする共に、実践のための活動にビジョンを落とし込んでいく仕組みづくりをやっていたべきだと思います。

司会 同友会づくりは、すなわち企業づくり、地域づくりを進めるためのシステムであり土台になるものです。企業や地域の将来の姿を明確にし、それを達成するために同友会をどのように変えていけばいいのかをビジョンも含



あったように同友会の学びが自社の抱える経営課題解決の手引きになり、ひいては自身の人間的な成長に結び付くという同友会のよさを説明し、それを理解して入会してもらうことが大切だと考えます。

野田 先日、新入会員のオリエンテーションに参加しましたが、みなさんそれぞれに経営課題を抱えているので、私の話を熱心に聞いてくれました。間違いなく増強に関する質が変わってきているのを感じています。経営者には経営者の立場ならではの悩みがあるはずなので、それを共感できる仲間がいることは非常に心強いですよというお話をします。そこから本当の課題が見えてくれば、例えば社員教育、あるいは共同求人等々、適切なアドバイスが結果的に増強に繋がるように考えます。

明石 十年前までの増強はやはり目標達成のためにやみくもに突っ走り、単なる数合わせに夢中になった時代だと思います。そういう苦い経験があるので、今はそれをしてつかりと伝えながらの取組みなので、質は変わっています。地道にこつこつ、数カ月



めて考えていく必要があるかと思いません。続いて自社の変化について、みなさんを代表して川北さんお願い致します。

川北 同友会運動からの学びは経営者としての私の姿勢の基本になっています。労使見解のお互いに人間として対等の立場の中で、組織としての縦系列をきちんと理解しながら、対話をし、仕事に取組むということです。良い会社とは何ぞやということ、言葉だけでなく将来ビジョンが明確で社員教育の満足度が高く、労使見解の中でのお互いに対等な関係を築き、基本的に財務内容が強い会社をつくっていきたくて考えています。そして十年後には現在の三倍ぐらいには成長させたいと思っています。また新入社員を含めて全社員が共通の認識と価値観を持てるような会社づくりをしつかりと考えていかなければなりません。もし同友会に入会していなければ、たとえ会社が潰れなくても、私自身の経営に対する姿勢はずいぶん異なっていたと思います。企業経営の様々な業務に同友会運動の学びをどのように生かし、浸透させるかが私の役目だと受け止めています。



をかけて一人の入会予定者のために行動します。共に経営課題解決のために取り組ましようという姿勢が私たちにもあります。ただしそのぶん、歩みは遅くなります。

香川同友会の中期ビジョン

司会 同友会の在り方をきちんと理解し、そのためにどういう増強をしなければならぬかを試行錯誤しながら積み重ねてきたのがこの十年間だと思います。そこで第六期ビジョン作成に関わった村尾さんから第七期ビジョンに向けて一言お願いします。

村尾 第六期ビジョンに関しては特別にビジョンづくりの委員会を設けるのではなく、理事会の中で検討したのが特徴です。ビジョンを実践する主体者は役員だということから、理事を巻き込んで作成しました。一方、経営環境研究会に大学の先生に参加していただき、意見を聞かせてもらいました。また作成にあたって全会員へアンケート調査を実施し、回答を大学の先生にま

司会 最後にこれから同友会運動が目指すところについて明石さんからご意見をお願いします。

明石 かつて「アタック二十五会員企業訪問運動」というのがありましたが、事務局員も我々会員も会員訪問をはじめて見えてくるものがあります。新入会員の訪問も大事ですが、既存会員さんとの会話の中から悩みや課題を見つけ、その解決に共に取り組み、その中へ事務局も入っていくのが理想です。事務局は事務だけではなく会員訪問をして、それぞれの分野のエキスパートになってアドバイスや支援するのが本来の同友会の形だと思います。そんな体制づくりのために代表理事会は事務局とタイアップする。そんな同友会を目指したいと思えます。

司会 貴重なご意見をありがとうございます。

